

審査の結果の要旨

論文提出者氏名 李 在 錫

提出された学位請求論文「**建築プロジェクト実施方式の多様化に関する研究**」は、建築生産に係わる社会・環境の変化と各主体の意思と能力の変化を最大限に反映し、プロジェクトの目的達成度と参加者の能力の発揮を最大化できるように、多様なプロジェクト実施方式を比較し、個々のプロジェクトに相応しい適切な選択を行う方法を提示した論文であり、全7章からなっている。

第1章「序論」では、研究の背景、目的、方法、構成等を明らかにした上で、既往の関連研究について述べ、本研究の位置付けを明らかにしている。

第2章「**建築プロジェクト実施方式がおかれた新しい状況**」では、研究の前提条件としての建築生産環境の変化を明らかにしている。具体的には、建築生産の目的と手段の複雑化、情報化・国際化による各主体の活動範囲の拡大、価値判断の基準の変化に伴う新しい建築生産主体の生起を、建築生産環境の大きな変化傾向として指摘し、従来支配的であった総額一式請負方式が十分有効に機能しなくなること、望まれるのが可能な限りフラットな組織の透明で客観性のあるマネジメントであること、更にはそうした特性を有する多様な建築プロジェクト実施方式の採用が必要であることを論じている。

第3章「**建築プロジェクト実施方式の構成要素**」では、先ず、第2章の成果に基づき、建築プロジェクト実施方式の静的な内部構造のみならず、動的なプロセスをも捉えることの必要性を強調し、本研究独自の着目点として PMP (Project Management Process) と POP (Project Product Oriented Process) の考え方を新たに提案している。そして、その両面から重要になる事項として、建築プロジェクト実施方式を構成するサブ・システムとしてのプロジェクト参加主体および主体間関係の組織化の過程を取り上げ、それぞれの事項に関する多様な選択肢のあり方を論じている。

第4章「**多様な建築プロジェクト実施方式の典型とその比較**」では、PMP と POP の両側面から、現段階で考え得るプロジェクト実施方式の類型を導出している。具体的には、世界各国で行われた実績のある多様な建築プロジェクト実施方式を網羅的に取り上げ、参加主体と各々の役割、相互の関係からそれぞれの特徴、得失を明確化している。これは多様な実施方式の比較、選択方法の提案という本研究の目的を達成するための第一段階の実用的な成果として位置付けられる。

第5章「日本における建築生産システムの特徴」では、先ず、日本における建築プロジェクト実施方式を構想する上での前提として、その特徴と歴史・文化的背景を文献調査等から明らかにしている。次いで、日本における専門工事業者のプロジェクト参加形態の実態と新たなプロジェクト実施方式についての意向を、複数の業種に対するアンケート調査に基づいて明らかにしている。その中で、日本における建築プロジェクト実施方式の多様化の必要性とそれに対応する専門工事業者の能力の存在を確認している。

第6章「欧米各国の建築プロジェクト実施方式の詳細と日本の多様化手法」では、欧米各国での新しいプロジェクト実施方式の普及の過程を詳細に分析した後、日本において、建築プロジェクト実施方式を多様な選択肢の中から適切に選択できるようにする方法を提案している。具体的には、プロジェクトの与条件を典型的に捉え、それぞれに相応しい実施方式のあり方を抽出することで、「IF～THEN」形式のシナリオの提示を行っている。更に、論理的に記述することの難しい詳細な組織デザインに関しては組織デザインのための要件を整理し、チェック・リストの形で提案している。

第7章「本論文の成果と今後の課題」では、前6章で明らかにした建築プロジェクト実施方式の多様化に関する各種の考察及び実証的研究の成果と、それに基づく日本でのプロジェクト実施方式多様化のあり方とを確認、整理し、本論文の結論としている。

以上、本論文は、これまで明らかにされていなかった建築プロジェクト実施方式の多様化の可能性を、詳細な実態把握と論理的な吟味に基づいて明らかにし、更に日本においてそれを実践段階に移すための要件と方法を適用可能な形で提示した論文であり、建築学の発展に寄与するところが大きい。

よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。